



ぐんま 県球連



2010.12.31

だより NO.9

群馬県軟式野球協会 制作

平成22年度

群馬県軟式野球功労者・ベストナイン等五賞

功労者

吾妻 支部	篠原 旭		
安中 支部	高橋 正憲		
伊勢崎 支部	宮田 宣行	山上 和雄	根岸 光夫
桐生 支部	川島 康雄	石田 貞弘	
渋川北群馬支部	狩野 弘之		
高崎 支部	森川 忠俊	石上 敏孝	松浦 敏之
館林 支部	岩瀬 秀夫		
利根沼田支部	石井 敏男	星野 三郎	
富岡 支部	福田 国男	山田 鞆人	
藤岡 支部	清水 勝		



ベストナイン・新人賞・笹治賞

投手	高木 伸之	32才	高崎市役所
捕手	関 大輔	32才	太田市役所
一塁手	備前島 健	24才	サンデン
二塁手	織茂 修介	31才	太田市役所
三塁手	大谷 洋一	32才	高崎市役所
遊撃手	鈴木 悠也	28才	群馬銀行
外野手	江原 真輔	23才	高崎市役所
〃	金城 俊一	23才	サンデン
〃	松本 隆史	30才	群馬銀行
新人賞	江原 真輔	23才	高崎市役所
笹治賞	竹内 章		高崎市役所 監督

榮譽賞



高崎市役所
 菊地製作所
 城南ファイヤーズ
 SKトライアンフ

★ 新装オープンされた上毛新聞敷島球場にて

JAグループ群馬杯
第41回群馬県少年学童軟式野球大会
兼 第34回群馬県小学生総合体育大会軟式野球競技会

の 開会式が推薦 2チーム 各支部代表27チームにより
堂々の入場行進が行われた

引き続き 雨で順延されていた

第32回東日本軟式野球大会(1部)の 準決勝戦・決勝戦は
愛知県代表 王子製紙クラフトズ が優勝しました



優勝の
王子製紙クラフトズ



第 65 回天皇賜杯全日本軟式野球大会・観戦記

天皇賜杯全日本軟式野球大会 65 回の歴史の中で、優勝回数を都道府県別に見てみると、愛知県が 14 回と突出して多く、ついで千葉県、長野県の各 6 回、大阪府 5 回、東京都 4 回とつづいている。このうち西日本地区の優勝回数は 38 回、東日本地区の優勝回数は 27 回と優勝回数だけ見ても、西高東低の傾向が強く見られる大会である。

では、我々の所属する関東地区の優勝回数はどうかというと、千葉県 6 回、東京都 4 回、埼玉県 2 回、群馬県、神奈川県、栃木県各 1 回、合計 15 回となっており、西日本以外の優勝の半数以上は関東勢であり健闘をしている。

尚 関東以北で優勝している県は、昭和 34 年群馬県開催時の青森県の 1 県だけである。さて、今年の太田市役所であるが、前年度の新潟国体において、天皇賜杯優勝経験のある西日本の強豪を次々に撃破し準優勝、東日本大会では優勝を果たし、全国の強豪チームに引けをとらない力をつけての出場で、期待を膨らませて観戦したが、初戦、宮城県に 1-0 で勝利。2 戦目、大阪府に 2-1 で惜敗し、思い通りの力を発揮できないまま終わってしまったように感じる。

特に攻撃面、初戦 2 安打 1 得点、2 戦目 3 安打 1 得点、両試合とも三振、フライアウトの数の多さが目立った。全国レベルで戦う為にかかー工夫ほしいところである。

守備面では、ダブルプレーによりピンチを切り抜けたことも何度かあり、エラーもなく安定したプレーであったが、相手打者のうまさもあり、大事な場面でのデットボールが勝敗を分けたように思う。

今年度の決勝戦は、日通四国(香川県)対 旭鋼管工業(埼玉県)、結局勝ったのは今回も、西日本地区、香川県の日通四国であった。

しかし、平成 4 年以後、絶対的な強さを持つチームがなく連覇するチームも少ない、何処の県、どのチームにも優勝する可能性は秘められている。

群馬県チームのプレーは全体がレベルアップし、全国標準以上のレベルにあることは間違いない。どのチームにも全国優勝できる可能性があるように思うが、これから先、全国優勝を果たすためには、明確な目標を掲げ、一つ一つのプレーを丁寧にする事、そして何より勝利に貪欲になることが必要である。

平成 6 年 JT 高崎が全国優勝して以来群馬県の全国優勝が遠ざかっている。

是非とも、天皇賜杯、国体での全国優勝を勝ちとる為、尚一層の奮起を期待したい。

第 65 回天皇賜杯全日本軟式野球大会観戦記

試合	対戦相手	結果	得点	安打	三振	エラー	その他
1	宮城県	勝利	1	2	0	0	
2	大阪府	惜敗	2	3	1	0	
3	香川県	勝利	1	3	0	0	
4	埼玉県	勝利	1	3	0	0	
5	香川県	勝利	1	3	0	0	
6	香川県	勝利	1	3	0	0	
7	香川県	勝利	1	3	0	0	
8	香川県	勝利	1	3	0	0	
9	香川県	勝利	1	3	0	0	
10	香川県	勝利	1	3	0	0	
11	香川県	勝利	1	3	0	0	
12	香川県	勝利	1	3	0	0	
13	香川県	勝利	1	3	0	0	
14	香川県	勝利	1	3	0	0	
15	香川県	勝利	1	3	0	0	
16	香川県	勝利	1	3	0	0	
17	香川県	勝利	1	3	0	0	
18	香川県	勝利	1	3	0	0	
19	香川県	勝利	1	3	0	0	
20	香川県	勝利	1	3	0	0	
21	香川県	勝利	1	3	0	0	
22	香川県	勝利	1	3	0	0	
23	香川県	勝利	1	3	0	0	
24	香川県	勝利	1	3	0	0	
25	香川県	勝利	1	3	0	0	
26	香川県	勝利	1	3	0	0	
27	香川県	勝利	1	3	0	0	
28	香川県	勝利	1	3	0	0	
29	香川県	勝利	1	3	0	0	
30	香川県	勝利	1	3	0	0	
31	香川県	勝利	1	3	0	0	
32	香川県	勝利	1	3	0	0	
33	香川県	勝利	1	3	0	0	
34	香川県	勝利	1	3	0	0	
35	香川県	勝利	1	3	0	0	
36	香川県	勝利	1	3	0	0	
37	香川県	勝利	1	3	0	0	
38	香川県	勝利	1	3	0	0	
39	香川県	勝利	1	3	0	0	
40	香川県	勝利	1	3	0	0	
41	香川県	勝利	1	3	0	0	
42	香川県	勝利	1	3	0	0	
43	香川県	勝利	1	3	0	0	
44	香川県	勝利	1	3	0	0	
45	香川県	勝利	1	3	0	0	
46	香川県	勝利	1	3	0	0	
47	香川県	勝利	1	3	0	0	
48	香川県	勝利	1	3	0	0	
49	香川県	勝利	1	3	0	0	
50	香川県	勝利	1	3	0	0	

第65回

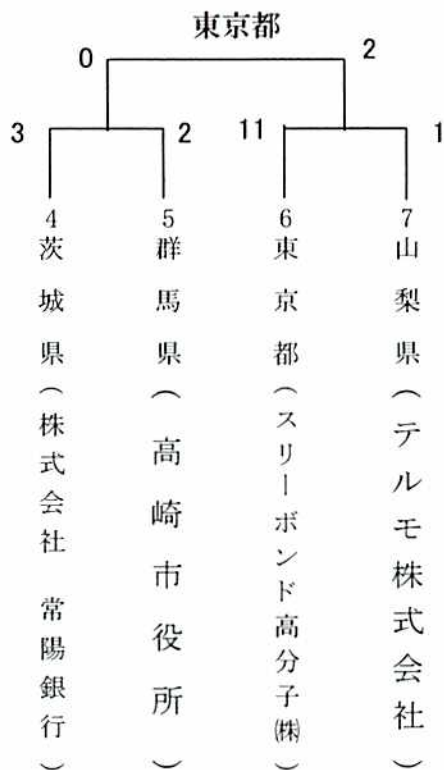
国民体育大会 関東ブロック大会



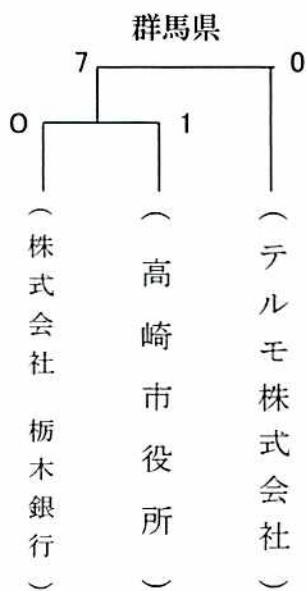
軟式野球競技

上毛新聞敷島球場

前橋市民球場



上毛新聞敷島球場



第65回国民体育大会関東ブロック予選会から「第65回ゆめ半島千葉国体」まで

(選手補強について)

本県における競技力は、昨年の太田市役所の結果から見ても上位に位置していると思われるところであるが、単独チームでの国体上位進出は難しい状況にある。このようなことから、選手補強を行い、正確・迅速をモットーとした競技力アップを図り、関東ブロック大会通過・本大会での上位進出を目指すこととした。

補強選手名：関大輔（太田市役所）、田沼俊英（太田市役所）

(関東ブロック予選会から)

本県での開催となった関東ブロック予選会については、本大会が千葉県で開催されることから、関東での出場枠が7分の5ということで、例年に無い厳しい組合せでの開催となった。

その結果、1回戦では茨城県にサヨナラゲームで惜敗したものの、2回戦、栃木県に1対0で勝利。さらに、山梨県との代表決定戦においては7回コールドで「ゆめ半島千葉国体」の出場権を獲得することができた。

高木、青木、山口とそれぞれタイプの違う投手陣の踏ん張りをはじめ、関、田沼両補強選手の高い守備力、そして、江原（新人）の打撃力が目立った関東ブロック予選会であった。

群馬県野球連盟強化委員会 岩佐英臣

<関東ブロック予選会>

1回戦（8月21日） 於：前橋市民球場

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
群馬（高崎市役所）	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
茨城（常陽銀行）	0	0	0	1	1	0	0	0	1×	3×

群馬（高崎市役所） 高木、山口一関

茨城（常陽銀行） 松本、渡辺一柄目

本塁打：江原（群馬）

二塁打：津田（茨城）

2回戦（8月21日） 於：上毛新聞敷島球場

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
群馬（高崎市役所）	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
栃木（栃木銀行）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

群馬（高崎市役所） 青木、山口一関

栃木（栃木銀行） 田代一福富

代表決定戦（8月22日） 於：上毛新聞敷島球場

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
山梨（テルモ株）	0	0	0	0	0	0	0			0
群馬（高崎市役所）	0	4	1	0	2	0	×			7×

山梨（テルモ株） 芦沢、櫻田一四条

群馬（高崎市役所） 高木、青木、山口一関

三塁打：江原（群馬）

二塁打：高木、藤本（群馬）

(第65回ゆめ半島千葉国体から)

国民体育大会初出場の高崎市役所、1回戦の対戦相手は、「マルセイバターサンド」で有名な、慶応カラーの六花亭(北海道)との対戦となった。初回、2番打者が2-3から放った打球は、左翼へのホームラン制の飛球であったが、これを江原(高崎市役所-新人)がジャンピングキャッチ。このプレーが引き金となり、1回の裏、江原、高木の本塁打で先制。終始、高崎市役所のペースでゲームが展開され、3対0で勝利することができた。

初出場で臨んだ1回戦、選手は非常に緊張したと思うが、連盟役員の方々による応援、さらには、市職労による応援で大変励まされたものであったに違いない。

2回戦は雨天のため1日順延となり、さらに、午後からの試合開始となった。

対戦相手は、これまで国民体育大会で2回対戦し、一度も本県が勝利したことがない兵庫県代表チームとの対戦となった。兵庫県代表の三洋電機洲本は、前週に東京都で開催された、天皇賜杯第65回全日本大会で優勝した日本通運四国(香川県)を1回戦で破った強豪チームであったが、小雨が降る中、先発青木投手が被安打2、三振7を奪う好投。結果、3度目の対戦ではじめて兵庫県代表に勝利することができた。

準々決勝戦は、地元代表の松戸市役所との対戦となった。

松戸市役所とは、これまで全国官公庁野球大会やオープン戦を通じて交流のあるチーム。中口、白鳥のバッテリーを中心に、機動力を積極的に活用するチームである。1点を先行された直後の5回表の攻撃、ランナー3塁におけるエンドラン(たたき)失敗が悔やまれる結果となった。

天候に悩まされた大会であったが、ベスト8に関東から出場したチームが5チーム残るなど、関東出場チームにおける競技力の高さを感じるとともに、関東を勝ち抜くための投手力を中心とした守備力の強化。ピンチにもチャンスにも強いメンタル面での強化。さらには、機動力を積極的に活用した戦術が、なお一層求められると感じた。

決勝戦は行われず千葉(松戸市役所)、京都(佐川印刷)が優勝となった。なお、千葉は2年ぶり2度目、京都は初優勝で幕を閉じた。

群馬県野球連盟強化委員会 岩佐英臣

<ゆめ半島千葉国体>

1回戦 (9月26日) 於: 袖ヶ浦市今井野球場

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
北海道(六花亭)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
群馬(高崎市役所)	2	0	0	0	0	0	0	1	×	3×

北海道(六花亭) 片山、岩山-松岡

群馬(高崎市役所) 高木-関

本塁打: 江原、高木(群馬)

二塁打: 田沼、小野里、江原、高木(群馬)



力投する 高木投手

2回戦 (9月28日) 於: 袖ヶ浦市今井野球場

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
兵庫(三洋電機洲本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
群馬(高崎市役所)	0	0	0	0	0	0	0	1	×	1×

兵庫(三洋電機洲本) 陰山-平岡

群馬(高崎市役所) 青木-関

準々決勝 (9月29日) 於: 袖ヶ浦市総合運動場野球場

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
群馬(高崎市役所)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
千葉(松戸市役所)	0	0	0	1	0	3	0	0	×	4×

群馬(高崎市役所) 高木、山口-関

千葉(松戸市役所) 中口-白鳥

二塁打: 鈴木(千葉)



<第64回関東軟式野球選手権大会結果>

1回戦(10月23日) 於: 駒沢公園野球場

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
群馬(高崎市役所)	0	0	2	0	2	0	0	0	0	4
茨城(常陽銀行)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1

群馬(高崎市役所) 高木-湯浅
 茨城(常陽銀行) 渡辺、宮本-柄目

準決勝(10月23日) 於: 駒沢公園野球場

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
千葉(松戸市役所)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
群馬(高崎市役所)	0	0	1	0	0	0	0	0	×	1×

千葉(松戸市役所) 妹尾-白鳥
 群馬(高崎市役所) 青木、山口-湯浅

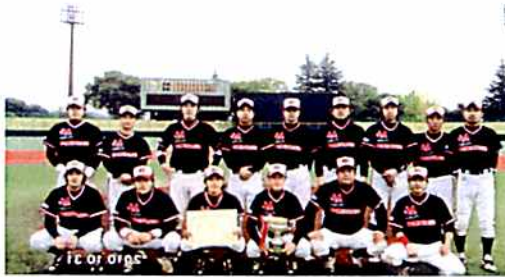
決勝(10月24日) 於: 八王子市民球場

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
東京(スリーポンド)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
群馬(高崎市役所)	0	0	0	0	1	0	0	1	×	2×

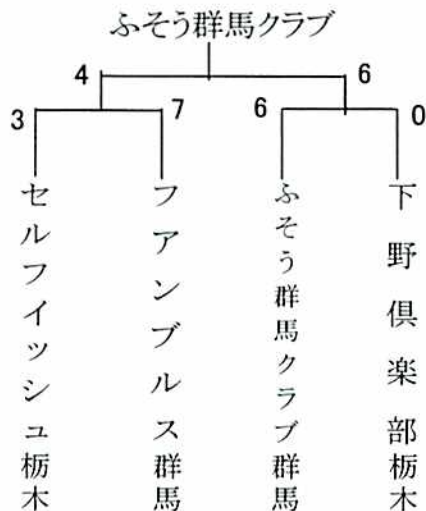
東京(スリーポンド) 近藤-大上
 群馬(高崎市役所) 高木、青木、山口-湯浅



平成22年度 両毛クラブ人 軟式野球大会



優勝 ふそう群馬クラブ(初優勝)





平成22年度 群馬県野球連盟少年野球指導者講習会 開催

ヤクルトOBである 高仁 内山 俣田 の3講師を向かえ 11月14日(日)
宮城総合運動公園野球場において実施
前橋市支部 伊勢崎支部 の少年野球指導者が参加



高仁講師



俣田講師

講習内容

13.00	あいさつ	講師紹介
13.05	実技指導	
	↓	
16.00	質疑応答	
16.10	終了	

計

群馬県野球連盟強化委員 酒井 浩一氏(享年50歳)

ご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



第92回全国高等学校野球選手権大会に審判委員として参加

群馬県野球連盟審判部 井汲 久司(館林)

10日間の甲子園球場、合宿生活の中で審判技術だけでなく「基本の大切さ」「審判委員としての姿勢」「審判委員としての心構え」など色々なことを学びました。その中でも強く印象に残っている言葉があります。それは、「技術だけを磨くのではなく、自分の人柄も磨いていくことで選手からも仲間からも信頼される」という言葉です。

様々な人柄があると思いますが、ここで言っていた人柄とは、誠心誠意を持ってグラウンドに立ち、一つ一つのプレイに応え、4人のクルーが一人一人信頼しあって1試合をこなして行く様な人柄です。

今、自分は仲間や選手にどんな人柄と思われるか分かりませんが、自分の人柄を見つめ直しながら取り組んで行くことが大切なことであり、そんな姿勢がきっと信頼される審判委員へと、つながって行くのではないかと思います。

また、合宿生活の中で一番印象に残っていることは、テンポアップ(スピーディーな試合運び)についてです。私は今まで勘違いをしていましたが、テンポアップは選手をせかしているイメージが強く、ただ試合を速く進めて行くために選手に声を掛けていました。

しかし、テンポアップとは、ゲームの中で訪れる「チャンスの場面」、「ピンチの場面」に、時間を使わせるための貯金であるとのことでした。このことを聞き私が思ったことは、声掛けの大切さと重要性を忘れずに、ゲームの流れを考えながら、選手に声を掛けて行くことが必要であると思いました。

甲子園での経験は本当に貴重な経験であり、私の宝物となりました。今後この経験を言葉で伝えて行くのではなく、グラウンドの中で伝えて行ければと思っています。

そして、甲子園を私の新たなスタートとし、次の目標に向かって頑張っていくと思っています。

最後に貴重な経験の場を与えて下さいました群馬県高等学校野球連盟の皆様、群馬県野球連盟審判部の皆様に感謝を申し上げ、私の報告とさせていただきます。



参 考

派遣審判の一日の流れに



- AM 5 : 0 0 起床 (宿舎 中沢佐伯記念館 在阪審判委員 5 名、在京審判委員 4 名、派遣審判委員 8 名の合宿)
- AM 6 : 0 5 宿舎出発 (電車にて阪神甲子園に向かう)
- AM 6 : 4 5 阪神甲子園球場到着
- ・ 球場内食堂にて朝食
 - ・ 在阪審判委員と共に試合球滑り止め作業 (1 試合平均 2 ケース・24 球使用、1 日 10 ケース・120 球を磨き、本大会では 150 ケース・1800 球を用意していました。)
 - ・ ボールボーイ事前説明 (第 1 試合は試合開始の 1 時間 30 分前に一塁側より報道陣と共に室内練習場に出向き、その後三塁側に出向きます。)
- AM 8 : 3 0 試合開始
- ・ 割当審判 (2 塁塁審、3 塁塁審、1 塁塁審)
 - ・ 控審判 (2 名にて 3 試合担当役割としては、1 名がスコアブックの記録、もう 1 名がタイムの回数と計測、試合時間の計測)
 - ・ 球場近隣の方への感謝を込めて、球場周辺の不法駐車のパトロール (割当、派遣期間中 3 回)
 - ・ 各割当の合間に 1 塁バックネット裏役員席にて試合の観察、球場内にて各自昼食
 - ・ 試合中におけるボールボーイへの声掛け (1 塁ベンチ横階段)
- PM 7 : 0 0 4 試合終了と同時に宿舎へ帰宅 (団体行動、4 試合目の担当審判、控審判を抜かす。)
- PM 7 : 4 0 宿舎到着 (宿舎事務局より事務連絡)
- PM 8 : 0 0 夕 食 (宿舎地下にて)
- PM 8 : 3 0 ミーティング
- ・ 派遣審判委員の甲子園での感想と今後の抱負
 - ・ 在阪審判員、在京審判員からの指導、助言
 - ・ 吉川審判技術顧問からの甲子園での取り組み方、審判委員としての心得など
- PM 10 : 3 0 入 浴、洗 濯、自由時間
- PM 12 : 0 0 就 寝



常任理事会

☆ 平成22年7月4日(日) 午後1時30分より 於 パークホテル楽々園(第2回)

- 報告事項 ・ 登録チーム数 ・ 関東女子交流会
- 審議事項 ・ 23年度県大会出場チーム数 ・ 県大会日程
- ・ 日体協公認スポーツ指導者養成講習
 - ・ 県体協会長賞候補の推薦
 - ・ 三役及び監事候補者推薦委員の互選について 他

☆ 平成22年11月27日(土) 午後1時30分より 於 パークホテル楽々園(第3回)

- 報告事項 ・ 登録チーム数 ・ 大会結果 ・ ベストナイン他
- ・ 推薦委員会(報告)
- 審議事項 ・ 功労者被表彰者の同意 ・ 県体協表彰について
- ・ 強化チームの指定 ・ 出場チーム数の変更
 - ・ 支部別県大会出場チーム数について ・ 日程案について 他

群馬県野球連盟
公式ホームページ

WWW1.OCN.NE.JP/~GSBB

編集後記

2010年度後期 たより県球連 9 号をお届けします
「たより」に対し ご意見 ご感想をお寄せください
また 誤字 脱字など お許し願います